

ベラルーシ公開情報取りまとめ

(10月6日～10月12日)

2020年10月13日

在ベラルーシ大使館

【主な出来事】

- ルカシェンコ大統領が国家保安委員会の拘置所を訪れ、ババリコ氏を含む政治犯らと約4時間半にわたって会談(10/10)
- ルカシェンコ大統領がプーチン露大統領と電話会談(10/7)
- ミンスクはじめ全国で、花を持った女性たちによる「政治的抑圧に反対するデマルシュ」、及び「誇りの行進」が実施された。(10/10, 11)

内政・外交

【ルカシェンコ大統領動静】

●プーチン露大統領との首脳電話会談(10/7)

- ・ナゴルノ・カラバフ紛争については、ベラルーシとロシアは早期の平和的解決を支持することで一致。
- ・両首脳は、ベラルーシとロシアの国境の完全な開放に向けて各々の政府に指示。
- ・ベラルーシ及びロシアの国内情勢についても議論。地方間のコンタクトや企業同士の協力が果たす肯定的役割を改めて指摘。

(10/7 大統領公式サイト)

●治安機関幹部との会合で、チハノフスカヤ元候補の出国経緯について発言。(10/9)

「8月9日の選挙後、チハノフスカヤはスケープゴートにされそうだったので、120名の人員をチハノフスカヤ陣営本部に送って警護してやった。」

「チハノフスカヤがベラルーシから逃げたい、リトアニアで暮らすお金がないというので、国営企業から1万5000ドルを持ち出して渡し、警護をつけて逃がしてやった。彼女は謝意を述べて、首に抱きつき、泣いた。」

(10/9 ベラパン通信)

●国家保安委員会の拘置所を訪れ、ババリコ氏を含む政治犯らと約4時間半にわたって会談(10/10)

ルカシェンコ大統領は、「国は『対話せよ』とのスローガンの下で生きている。私は、あなた方の支持者の批判を受け、あらゆる問題に関し、最もラディカルな

提案についても考えた。憲法のみにはこだわらなくてよい。この場の半数は法律家であり、路上で憲法は起草できないことをよくお分かりだろう。私はこれをより広く見ており、あなた方の支持者のみでなく社会全体に対し、問題をより広く見るべきことを説得したい」と発言。

意見交換は4時間半続いた。話し合いは政治・経済を始めとして多くの極めて重要な議題に及んだが、詳細については参加者達の申し合わせにより明かさないこととなった。

話し合いの様子を撮影した写真から判断すると、セルゲイ・ババリコ氏の他、同氏の息子であるエドゥアルド・ババリコ氏、リリヤ・ヴラソヴァ氏、ヴィタリー・シュクリャロフ氏、ユーリー・ヴォスクレセンスキー氏を含む10人近くが参加していた。

(10/10 大統領公式サイト、ベラパン通信)

●ナリヴァイコ税務大臣と会見。(10/12)

「2020年1月－8月の期間において、国税庁は177億ベラルーシ・ルーブルを徴収した。全体予算の(徴税)計画は96.5%が確保されている。未徴収の金額は7億ベラルーシ・ルーブルであるが、これは主に感染症拡大と関連している。」旨報告した。ルカシェンコ大統領は徴収実態につき概ね満足できると評価。

なお、同庁はベラルーシ国家予算全体の70%近くを徴収している。

(10/12 大統領公式サイト)

●ラフモン・タジキスタン大統領に大統領選挙における当選祝辞を送付。また、同大統領と電話会談を実施。(10/12)

両首脳は、二国間関係・地域・国際情勢について協議し、キルギス情勢とナゴルノ・カラバフにおける出来事について詳細に議論した。COVID-19 感染拡大対策に関する経験も交換した。

(10/12 大統領公式サイト)

【内政】

●調整評議会が、政権側による憲法改正のイニシアティブを批判する声明を発表(10/8)

「憲法改正という幻想を作り出すことによって、現政権は政治危機から脱するための議題をすり替え、時間稼ぎをして、選挙の捏造とその後の前例のない暴力からベラルーシ人の注意を逸らそうとしている。調整評議会は、憲法に修正を加えるというイニシアティブの表明は時期尚早であり、国内の政治危機の解決に資しないと確信している。」

「ベラルーシ共和国の憲法体系の改革は、国家権力の合法性と国民の信頼の回復の後にのみ可能である。世界の多数の国がその正統性を認めていない大統領のコントロール下で実施される国民投票、及び自らの信頼を損ねている選挙管理委員会による投票集計は、国民投票の如何なる結果をも正統性を欠いたものにさせる。」

(10/10 ベラパン通信)

●ルカシェンコ大統領がババリコ氏他と面会したことを受け、チハノフスカヤ元候補が発言。(10/10)

「今日の出来事は私達の圧力の結果だ。この面会実施によってルカシェンコは、以前は刑事犯と呼んでいた人々を政治犯と認めたことになる。」

(10/10 ベラパン通信)

●チハノフスカヤ元候補が、夫(セルゲイ氏)と134日振りに電話。(10/10)

チハノフスカヤ元候補は、「(政治囚)全員が解放されるまで退き下がらない」と述べたことを含め、約12分

間の通話内容を自身のテレグラム・チャンネルで公表。

(10/10 TUT.by)

●ミンスクで前週に続き、花を持った女性たちによる「政治的抑圧に反対するデマルシュ」が約2時間にわたり実施された。(10/10)

同デマルシュはキエフ、ミュンヘン、シュツットガルト、サンクトペテルブルク、ポローニャ、ロンドン、ワルシャワなど世界の20以上の都市でも実施された。

(10/10 ベラパン通信)

●ミンスクで「誇りの行進」が実施された。(10/11)

雨が降る中数万人が参加したが、ミンスク英雄都市記念碑付近では冒頭から特務警察による拘束が行われ、人々が追い払われた。ミンスク市内複数の地下鉄駅が閉鎖され、モバイル・インターネット通信が一部遮断された。また、ベラパン通信や露タス通信の記者を含むジャーナリストが拘束された(タス通信記者はその後解放)。政府庁舎のある地区では広場が閉鎖され、軍用車両が集結。ゴメリ、モギリョフ、グロドノ、ヴィテプスク、ジョジノなど地方都市でも抗議活動が実施され、全国で少なくとも 279 人が拘束された。(10/11, 12 ベラパン通信、TUT.by)

●調整評議会幹部会メンバーでミンスクトラクター工場のスト委員長であるディレフスキー氏、同工場で働く両親を解雇すると脅されたため、自らが同工場を依願退職。(10/11)

(10/11 ベラパン通信)

●10月5日(月)に続きミンスクをはじめ各都市で年金生活者がデモを実施。(10/12)

デモ参加者は、新たな大統領選挙の実施と治安部隊による暴力反対を訴えた。ミンスクでは数百人が参加した。

(10/12 ベラパン通信)

【外交】

●ベラルーシ外務省の求めにより、リトアニアとポーランドが協議のために駐ベラルーシ大使を召還。ポーランドのラウ外相は、他のEU加盟国も協議のためにミンスク駐節の大使を召還しつつあると明らかにした。その後、EU代表部大使、ドイツ大使、ブルガリア大使、エストニア大使、ラトビア大使、チェコ大使、ルーマニア大使及び英国大使も出国。(10/6-9)

(10/6-9 ペラパン通信、TUT.by)

●チハノフスカヤ元候補、ベルリンでメルケル独首相と会談。(10/6)

チハノフスカヤ元候補はメルケル首相に抗議勢力を象徴する白赤白の傘と「ベラルーシ国」という書籍の独語版を贈呈。

(10/6 ペラパン通信)

●チハノフスカヤ元候補、スロヴァキア大統領及び外相と会談。また、オーストリア、ブルガリア及びドイツの外相と会談。(10/8)

(10/8 ペラパン通信、TUT.by)

●ポーランド外務省、ベラルーシ外務省の要求に応じる形で32人の外交官を召還。(10/9)

(10/9 TUT.by)

経済

【国内経済】

●ベラルーシ原発(オストロヴェツ原発)の第一ブロックが制御可能な最低出力で稼働。(10/11)

事業者によると、同出力での稼働により、計画に沿った種々の炉心内での計測・検査が実施可能となること。

(10/11 ペラパン通信)

●2021年から2025年までの社会経済発展プログラムによると、GDPに占めるデジタル経済のシェアを15%まで拡大する計画

国家統計局の評価によると、2019年のGDPに占めるデジタル(情報・通信)・サービス部門のシェアは

6.6%であった。

(10/12 ペラパン通信)

【対外経済】

●IT企業数十社を含む80社以上のベラルーシ企業がリトアニアへの移転に関心。

リトアニアの国家機関 Investuok Lietuvoje (「リトアニアで投資を」の意)の情報。

(10/8 ペラパン通信)

●ユーラシア安定化発展基金(EFSD)が5億USDの対ベラルーシ融資を承認。(10/12)

同融資は、5年間の変動金利期間を含む10年間の返済期限で提供され、COVID-19拡大による経済・財政・社会部門への影響の対策に向けられる。

(10/12 ペラパン通信)

【治安・軍事】

●10月12日から16日まで集団安全保障条約機構(CSTO)加盟国による軍事演習「揺るぎない絆2020」がヴィテプスク州内の演習場ロスヴィドで実施される。

同演習は2012年から毎年CSTO加盟国の領土で実施。今回の演習には加盟国から計900名以上が参加。

(10/12 ペラパン通信)

(了)